

編集後記

『言語研究』第46号が無事発行されることになった。ご寄稿くださった先生方、ご多忙の中、査読を引き受けてくださった先生方に感謝申し上げます。

『言語研究』第46号には「論文」が1本、「研究ノート」が2本掲載されているが、いずれも言語教育に関連する実践的内容である。ここ数年、オンラインによる授業の展開やコーパスまたは言語景観を活用した授業などが増えており、本号にもそれらの実践的取組みが取り上げられている。ご寄稿くださった先生方にはその研究の続きをまた投稿していただきたい。

今後は、AI（人工知能）を活用した言語教育やその活用の拡大の可能性を扱ったご寄稿も待ちたい。また、ポストコロナ時代を迎え、約3年に及んだパンデミックが私たちの研究環境および教育環境に及ぼした影響に関する論考にも期待したい。

「言語研究」なしで「言語教育」は成り立つのか。言語の理論的研究と実践的教育は言語教育に携わっている私たちのヴィークルであり、翼である。先生方の「言語研究」の成果の一端や、「言語教育」の現場での新しい取組みやアプローチなどを『言語研究』という場においては是非共有していただきたい。『言語研究』が先生方の研究に磨きをかける小さな土俵であり続けるとともに、若手の先生方にとっては更なるご活躍の1つの場として活用していただきたい。

発行母体の「言語研究センター」とともに学内の先生方のみならず、他大学の共同研究の先生方にも積極的にご寄稿いただけるように今まで以上に研究をサポートする体制で臨んでいきたい。

(Y)